

郷土の

偉人

多彩な文化人 錦 三郎

錦三郎（旧姓横尾）は南陽市が誇る多彩な文化人でした。三郎は、大正 3 年山形市前明石に生まれ、昭和 11 年山形師範学校専攻科を卒業すると梨郷小学校教員となり、以後、南陽市民となりました。

三郎は 15 歳の頃から歌人斎藤茂吉の直弟子結城哀草果^{あいそうか}に師事して作歌を始め、昭和 12 年に短歌結社「アララギ」に入会后、亡くなるまで短歌を作り続けました。歌集も数冊出版し、作歌数は八千余首と言います。晩年には短歌結社「山麓」の選者も務めました。

錦三郎の名が全国に知られたのは「クモ博士」としてでした。置賜地方には昔から初冬に、空に糸が飛び交う「雪迎え」という現象が見られます。三郎は昭和 13 年頃から雪迎えに関心を持って研究を始め、やがてこれが「空を飛ぶクモ」の現象であることを突き止め発表しました。昭和 33 年には日本蜘蛛学会^{くも}に入会して研究を深め、同 39 年「蜘蛛百態」を出版、日本エッセイストクラブ賞を受賞しました。同 49 年「空を飛ぶクモ」を出版、これが好評を博し、厚生省児童福祉文化奨励賞、サンケイ児童出版文化賞、ジュニア・ノンフィクション文学賞を受賞し、同 50 年斎藤茂吉文化賞も受賞しました。

多芸多才の三郎はその間教材のスライド作りにも熱中し、視聴覚教材コンクールの全国入選を始め、県特選 3 回、県入選 3 回を果たしています。

昭和 48 年教職を退き、同 50 年市芸術文化協会会長に就任、同 51 年には市史編さん嘱託、さらには編集委員長として、「南陽市史」全 6 巻、および「南陽市史編集資料」（25 号まで）の発刊に力を尽くしました。



●糸を吹き上げるクモの様子
「白竜湖・大谷地」錦三郎写真集より

このほか、市文化財保護審議会会長、市第九を歌う会会長、市合唱協会会長、夕鶴の里運営協議会会長などを務めました。テレビの出演も多くあったようです。このような功績が認められ、平成 4 年 NHK 東北ふるさと賞、地域文化振興で文部大臣賞を受賞しました。

平成 9 年 5 月、南陽市文化人の巨星錦三郎はその輝かしい生涯を閉じました。

文・須崎寛二

平成 24 年 11 月 1 日号 市報なんよう掲載

